

## 農家チーズ工房の導入による所得の向上

(農家チーズ工房の経済性と発展方向)

経営科 山田 輝也

(E-mail : yamadatr@agri.pref.hokkaido.jp)

### 1. 背景・ねらい

北海道では近年農家チーズづくりを始める酪農経営が見られるようになり、また頭数規模拡大ではない方向として農家チーズづくりに関心を持つ酪農経営が増えています。

そのため、酪農経営が農家チーズ工房を導入する目的と労働力利用の関係、ならびに農家チーズ工房の経済性を明らかにすることを踏まえ、農家チーズ工房の発展方向を示しました。

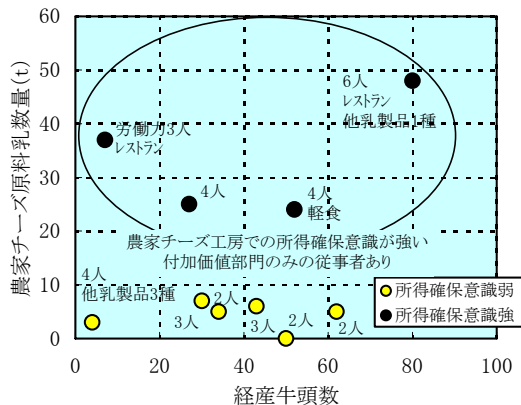


図1 経産牛頭数と農家チーズの生産量

注) 農家チーズ工房の多い道東地域を中心に生産量に応じて抽出調査

### 2. 技術内容と効果

1) チーズは特にナチュラルチーズの増加が伸びてきましたが、消費の多様性が落ち着きを見せ、消費量の伸びが鈍化し、価格のディスカウント化が進んでいます。

2) 農家チーズ工房の増加が著しいですが、ハード系のチーズを主体に生産量が少ないのが現状です。ただし、原料乳数量が20-50tの階層では、チーズ以外の乳製品も取り入れ、レストラン・軽食も組み合わせた農家チーズ工房が見られ、経営の多角化が図られていました。

3) 農家チーズ工房を導入する酪農経営は、経産牛頭数が40頭近辺に多い状況です。なかでも農家チーズ工房に対して所得を確保する部門としての意識を強く持つ経営は、労働力が4人以上あり、農家チーズ工房に専任の従事者を配置して農家チーズの生産量をより多くし、販売面でも個人客を確保しています。(図1、2)

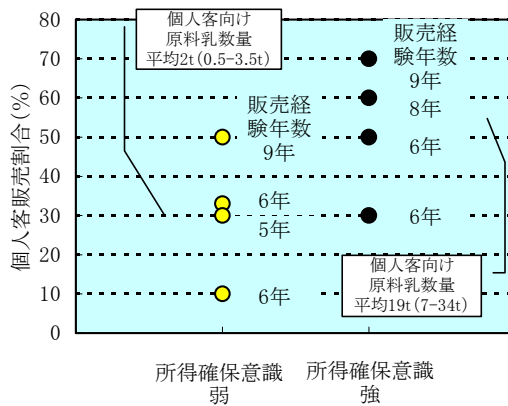


図2 農家チーズの販売経年数と個人客販売割合

注) 農家チーズ工房の多い道東地域を中心に生産量に応じて抽出調査

4) 経産牛40頭の酪農経営が後継者を確保し家族労働力4人と余裕あるケースを前提に比較しました。農家チーズ工房を所得を確保する部門として導入する酪農経営では、農家チーズ工房導入に要する投資額が約2,000万円になり、これは酪農専業経営の経産牛40頭程度と60頭程度の農業固定資本額の差とほぼ同じ値になります。そして経産牛が40頭と60頭の農業所得の

**表1 酪農頭数拡大に見合う所得目標達成のための農家チーズ工房の経済的条件**

	酪農頭数拡大 40→60頭 注1)	農家チーズ工房導入 40頭+農家チーズ工房		
固定資本額の増加	約2000万円	約2000万円		
所得の増加	約350万円	目標所得350万円達成のための条件		
		【労働力2人】	通販取引の例	業者取引の例
		チーズ100g単価	450円 注2)	350円 注2)
		原料乳数量	20t	30t
		販売額	900万円	1000万円
労働時間の増加	約1100時間	労働時間	2000時間	2500時間

注1)酪農の頭数規模拡大の数値は、「北海道農林水産統計年報」から算出

注2)設定小売単価450円/100gの場合、農家手取り単価は「通販取引の例」では450円/100g、「業者取引の例」では350円/100gとした

注3)労働力2人…聞き取り調査では、専任労働力1人では20t、製造補助を行い主に販売業務を担当する補助労働力1人が加わると30tが限度であった

差は 350 万円です。

近づけていく垂直的多角化と想定されます。

農家チーズ工房の目標所得水準をこの 350 万円と設定したとき、専任労働力 1 人と補助労働力 1 人を確保し、少なくとも原料乳数量で 20-30t 程度、100g 単価 450-350 円程度、販売額で 900-1,000 万円程度確保することが目安となります。(表 1)

(図 3)

6) 上記の事例のトレースから発展方向を進む上での課題を技術習得、販売・経済性、経営全般について抽出し課題解決方法を考察し整理すると、農家チーズ製造の技術指導体制の整備、お客を確保するため地域内のグリーン・ツーリズム実践者との連携など関係構築、ファミリーサイクル(家族労働力の世代交代)への対応のため雇用労働力の導入が重要と考えられます。

5) 上記の経産牛頭数と家族労働力の条件に合う事例のトレースから、酪農(第一次産業)を経営の基軸に、加工業(第二次産業)である農家チーズ工房の経済性を意識し、労働力の増加により農家チーズを増産し、中間マージンを省いてニーズ把握も直接行い販売を強化するため小売業(第三次産業)を経営内に取り込む過程を確認しました。

(表 2)

すなわち、図 1、2 と事例のトレースを踏まえると、農家チーズ工房の発展方向としては、エンドユーザーであるお客(消費者)との距離を

**表2 農家チーズ工房導入により発生する課題の解決方法**

	課題	解決方法
【技術習得関係】	●新しい種類のチーズの技術習得には時間がかかっており経済的影響が生じていること。	●技術の早期習得により商品化を早め、経済的自立を可能とするために技術指導体制の整備が必要である。
【販売・経済性関係】	●業者との商談の席で価格交渉が決裂要因として増えてきていること。 ●農家チーズ工房の実力をつけるために個人客の確保に動いているが手探りであること。 ●経済的自立までに酪農からのサポートを必要とすること。	●「見込み客」「新規客」「リピート客」確保の善循環をいかに早期に作り出せるかがカギとなる。具体的には、都市と農村の交流を行う地域内のグリーン・ツーリズム実践者と連携しお客の流れを作ったり、顧客ニーズと関連性の高い異業種と連携を行ったりといったことが考えられる。
【経営全般】	●ファミリーサイクルへの対応が可能な経営のしくみづくりが必要になること。	●戦略との照らし合わせのもとで雇用労働力を組み入れた経営に移行せざるを得ないと考えられる。

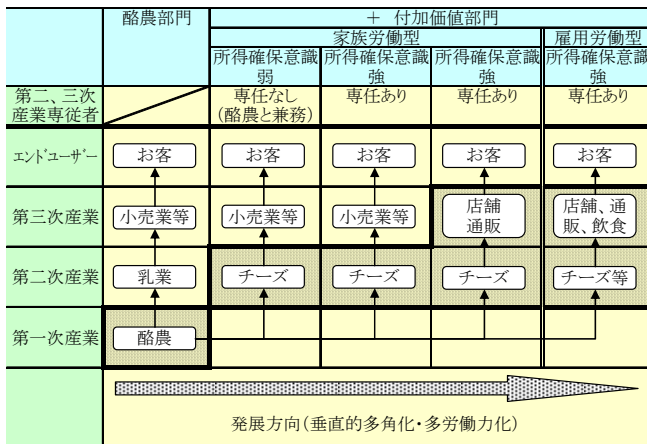


図3 農家チーズ工房の発展方向

注1)「お客」とは「消費者」を示す。

注2) 図中の太枠内は、経営内で取り組む範囲を示す。

### 3. 留意点

経産牛頭数 40 頭程度で労働力に余裕がある家族経営の方が、所得向上策の選択肢のひとつとして参考としてください。